



もいおかYMCA ニュース



アドベンチャー4月活動



アドベンチャークラブの4月活動が、4月30日、盛岡市三ツ割の小鹿牧場で行われました。

当日は、11名の子供たちと、4名の大学生のボランティアリーダーが参加。暖かい日差しの中で、思う存分遊んで来ました。



牧場を貸切状態!!

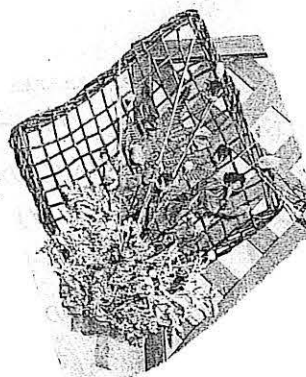
小鹿牧場は、マシェリの盛岡桜の名所特集でも紹介された、桜の名所。子供たちが思う存分遊べる、スペースもあるということで決定した場所でしたが、前日リーダー達と再度、下見に行ったところ、肝心の桜が咲いていません。蕾も固く、どう考えても次の日咲くような、雰囲気ではありません。

当日は、朝から晴天。本町のYMCAの前の桜も咲いています。バスで小鹿牧場に向かったのですが、途中の高松の池も満開のようでした。どうやら、花見と題して、わざわざ、バスに乗って、桜の咲いていないところに向かってしまったようです。しかし、何が幸いするかわかりません。桜が咲いていないということで小鹿牧場はガラガラ。YMCA以外はほとんど誰も来ておらず、広々とした牧場で、野球をしたり、風船をとぼしたり、小川をせき止めてダムを作ったり、春を満喫した一日でした。

いろいろ手作り教室

フラワーアレンジメント

毎回、好評のYMCAいろいろ手作り教室が4月27日(木)YMCAで行われました。今回は、籐製品とドライフラワーを使っての壁掛け作り。今回は、8名のお母さん方が参加。和気藹々と楽しいひと時を過ごしました。



地の塩

旧ソ連の外務大臣で有名だったアンドレイ・グロムイコ氏が、駐米大使としてワシントンにいたときの話。

世界各国の大使は今度来たソ連の大使はどのような人物か非常に注目していた。ある集まりの席上のことである。イギリスの大使が「イングリッシュ・イズ・インターナショナル・ランゲージ」と発言しはじめた。

そのとき、グロムイコ大使は、大きな声で「No」と発言し、次の言葉を付け加えた。「イングリッシュ・イズ・ノット・インターナショナル・ランゲージ」「ブローケンイングリッシュ・イズ・インターナショナル・ランゲージ」。各国の大使たちは、どっと沸いた。誰もがブローケンイングリッシュを話していたからである。

多摩大学の日下公人氏が、ある経済誌の巻頭言で紹介されていた話である。書き言葉と話し言葉は違う。前者は記録に残るが、後者は、相手の記憶に残る以外、泡のように消えてしまう運命にある。そのことを知ってかどうかわからないが、人は結構無頓着に話言葉を使ってしまうものである。これは、インタビューや、対談などのテープを起こしてみると明らかである。話言葉はほとんどの場合、文章になっていない。逆に話し言葉を注意しながら文章のように語ってしまうとこれまた無味乾燥な言葉になってしまう。

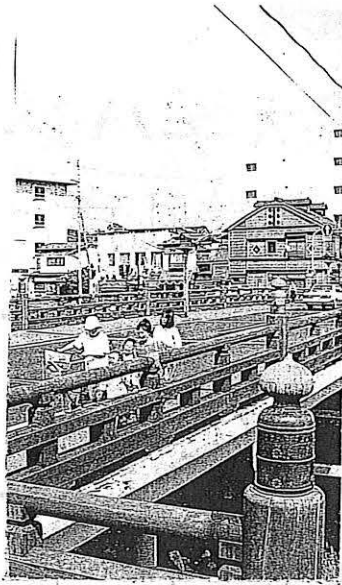
英語を身につける大きな目的の一つは英語をコミュニケーションの道具として異なった文化として理解していくことだ。

インドのマドラスの空港でのことである。係官に搭乗ゲートを訪ねた滋賀のYMCAのスタッフが係官の答えたのはまるで検討違いのゲートをもう一度聞き直した。別の係官がそれを聞いてもう一度説明しなおしている。「有名な大学の英文科を出ているのにこの人の英語はたいしたことないな」そう思っていたら、後で聞いてビックリした。彼はわざと間違ったゲートを聞き返していたのだ。何度もインドに行って身に付けた知恵だという。まさに英語は度胸。(濱)

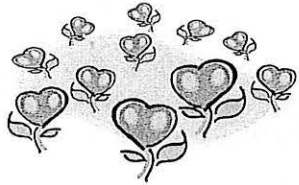
新シリーズ お母さんの必殺技！！③

新シリーズ お母さんの必殺技も3回目。今回は、上野慎太郎君のお母さんに執筆をお願いしました。盛岡YMCAの位置する、本町、愛宕町近辺に育ったお母さんは生粋の盛岡っ子。一番盛岡らしさの残るこの界隈をよくご存知の方です。

古き、良き盛岡（と言うとしかられそうですが…）で幼馴染の慎太郎くんのお母さんとお父さんはどのような子供時代を過ごしていたのでしょうか。今回は60年代の盛岡にタイムトリップ！



盛岡市の中心を流れる中津川、この川に架かる上の橋には慶長年間の青銅擬宝珠が多数取り付けられている。全国的にも珍しく、国の重要美術品に指定されている。



父と母、思い出、本町、愛宕界隈

慎太郎の父、母は、思い出いっぱいの小、中学生時代をそれぞれ、本町、愛宕町界隈で過ごしました。

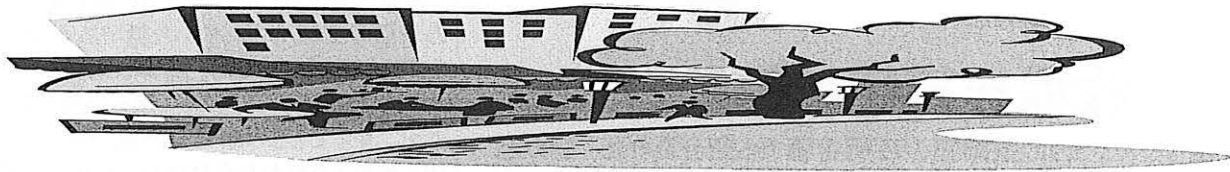
中津川の氷が薄く融け、猫柳が銀色に眩しく揺れ始めると、子供たちは競って河原に駆け下り、わすれな草やほこべを摘み、キーンと透き通る緩やかな川の流れから日本手ぬぐいでメダカをすくい捕ったものでした。

細長い本町通りから見る四谷交差点あたりは、行き止まりのように感じられ、見上げると、突然そこには、燃えるような夕焼け空が現れ、額の中の絵のように印象的でした。

医大の裏通りには、5円玉を握りしめ追いかけた紙芝居のおじさんがいました。町には4、5件のみせっこやさんがあり、“おぼさん！ 当たった！”と子供たちの歓声が聞こえていました。

自動車も少なく、運動会が近づくと電柱柱の間でかけっこの練習をし、当日、早朝には運動靴ではなく裸足、足袋、体育帽ではなく鉢巻を身につけて、冷たい風を頬に感じて上の橋を駆け抜けていったものです。

時代は、風景も遊びも変えてきましたが、今、私共が楽しい時代だったと子供の頃を振り返るように、20世紀から21世紀への橋渡しというピクチャンスを迎える子供たちが、大人たちが思うより、自分達にとつて楽しい時代だったと振り返る日がくることを祈っています。



簡単料理一口メモ

(1960年代グランドマザーのベーコンスープ)

上野さんからは、盛岡の昔の風景のほかに60年代のお料理もご紹介いただきました。オールディーズをBGMIに、すするスープはまた格別。行楽に出かけた後、日曜の夕食なんかにはぴったりだと思います。是非お試しください。

レシピ (片手鍋1杯分)

| | | |
|----|------------|-------|
| 材料 | ベーコン | 1パック |
| | じゃがいも | 大3個 |
| | 人参 | 大1本 |
| | 玉葱 | 中2個 |
| | 牛乳 | 200cc |
| 3本 | ホワイトシチューの素 | |



塩コショウ

作り方

- 1、片手鍋に半分位のお湯を沸かします。
- 2、ベーコン・野菜を1センチ四方位に切っておきます。
- 3、沸騰したお湯の中に2の材料、牛乳、塩コショウ、を入れ、最後にホワイトシチューの素をお好みで入れ弱火でコトコト煮ましょう。あっという間に美味しいベーコンスープの出来上がりです。

☆☆☆ なんと1960年代は、このスープをお椀でいただいていたのです。2000年は川徳ドンクのpm5:00焼きたての夕焼けパンとご一緒に如何でしょうか。彩りにパセリなども☆☆☆

